

令和7年度 第1回 狩野川水系流域委員会 議事要旨

日時：令和7年11月19日（水）10:00～11:30

場所：WEB 会議

1. 委員会の成立

- ・委員総数8名の内、7名出席であることから、狩野川水系流域委員会規約第4条に則り、本委員会は成立した。

2. 報告

(1) 令和7年度の出水状況

事務局より「令和7年度の出水状況」について報告した。

3. 議事

(1) 狩野川水系河川整備計画の点検

事務局より「狩野川水系河川整備計画の点検」について説明し、意見として次のような発言があった。

- ・「令和元年東日本台風(2019年10月)の被害状況」において、令和元年東日本台風では本川からの破堤はなく、浸水被害は軽減されていくものと思われる。今後は内水被害の軽減が課題と思われるので、流域治水をしっかりと進め、土地利用規制を再考する必要がある。
- ・「気候変動を踏まえた「狩野川水系河川整備基本方針」の概要」において、河道と洪水調節施設等の配分流量が記載されているが、グラフに記載の流域貯留流量について再度説明をいただきたい。
- ・基本方針の本文において、山間部の土砂管理について記載されているため、今後の河川整備計画の変更にあたっても、同様に記載をしていただきたい。
- ・TNFD等の民間事業者の活力を活用し、自然環境の改善に取り組んでいただきたい。

- ・「気候変動を踏まえた「狩野川水系河川整備基本方針」の概要」において、大場川、来光川が気候変動に伴い降雨量が増加するのに、計画高水流量に変更がないのはなぜか。河道の流量配分を増やさない分は、どのような計画となっているのか。内水リスクに対してどのように対処するのか。
- ・ワンドやたまり等が埋まりつつあり、今後の対応策として部分的に掘削を進めるなど、生物への影響に少ない手段を検討して進めて欲しい。
- ・「現状と課題（１）治水の現状と課題」において、黒瀬橋付近の河道掘削を懸念している。黒瀬橋下流では狩野川では稀な沈水植物が河床にみられ、アユなど水生生物の好適な生息・生育環境となっている。施工上、下流の沈水植物にも留意・配慮していただきたい。
- ・令和５年度に狩野川水系基本方針が変更されたが、種の抽出・選定が良くなかった。今回の河川整備計画の変更の際は、意見聴取をしていただきたい。
- ・「現状と課題（２）河川の適正な利用及び正常な機能維持の現状と課題」において、近年、狩野川流域での渇水被害が発生していないが、今後は渇水リスクの可能性がある。渇水時の対応について関係者と協力して頂きたい。また、流域治水に関して、水田貯留やため池の活用など、治水、利水が連携、協力して進めていただきたい。
- ・「現状と課題（３）環境の現状と課題 ⑤水際の植生延長」において、アオハダトンボの生息環境については、今後も検討及び対策を続けていただきたい。
- ・「現状と課題（７）総合土砂管理の現状と課題」において、総合土砂管理を行っていくにあたり、土砂量だけでなく、土砂の粒径や比率のモニタリング等についても行っていただきたい。
- ・「狩野川水系河川整備計画における現状と課題の要点」において、利水と環境の現状と課題に記載があるとおり、たまり・ワンド等の環境が減少傾向であることは現状として重く考えて頂き、それらの保全、再生する計画としていただきたい。
- ・ブタクサが増加し、ヨシ類が減少傾向であるのは、水辺のエコトーンの減少が考えられ、オーダーメイド設計で水際に寄り州ができるような低水護岸法線の位置や護岸形状の多孔質化など工夫が出来るとうい。

- ・日本では、国外外来種（移植種）について掲載されている種以外に、現在ではコウライオヤニラミなどが生態系に大きく影響を及ぼしている。また、国内外来種（他地域産在来種）など生態が似ている種の侵入によって、狩野川流域の生態系に影響を与える可能性が高い。移植種ばかり抽出され、在来種が考えられていないため、狩野川流域全体の生態系を把握した上で種の選定をした方がよい。
- ・移植種と在来種の意見について、同感であるため、今後再考していただきたい。
- ・「現状と課題（３）環境の現状と課題 ⑧人と川の触れあいの場」において、川への関心を高める素晴らしい事業のため、維持管理も含めて引き続き推進していただきたい。
- ・狩野川台風発生後、狩野川流域では砂防ダム・堰堤が建設された。今後、総合土砂管理を検討していくにあたり、それらの砂防ダム・堰堤の機能が維持されていくよう管理もしていただきたい。
- ・狩野川流域にある砂防堰堤は国管理以外に県管理の施設もあり、かなり昔に建設されているため、ほぼ満砂状況なのではないか。
- ・総合土砂管理を推進する上で、河川環境に生息する種が必要とする土砂の粒径や粒度があると思うので、学識経験者の知見も踏まえながら整理・検討していくことが必要である。また、基本方針と整備計画ではタイムラグがあるため、生物情報については学識経験者の意見や最新情報を踏まえ、補足、説明していくことに配慮いただきたい。

4. その他

(1) 今後の流域委員会の開催予定

事務局より「今後の流域委員会の開催予定」について説明した。

以上